

(仮訳)

プレス・リリース

2021年3月31日

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループは、バーゼル銀行監督委員会の戦略的優先事項と作業計画を承認するとともに、ノンバンク金融仲介に関するグローバルな取組みについて議論

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）の上位機関が、バーゼル委の戦略的優先事項と、2021～22年の作業計画を承認。
- 作業計画では、合意された改革の実施、新たに台頭するリスクや脆弱性の評価および更なる監督上の協力を優先。
- ノンバンク金融仲介（以下「NBFI」）に関するグローバルな取組みについても議論。

バーゼル委の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（以下「GHOS」）は、本日、バーゼル銀行監督委員会の戦略的優先事項と、2021～22年の作業計画を承認した。

バーゼルⅢの政策アジェンダに明確な終止符を打つとの前回のGHOS会合での合意に沿った形で、新しい作業計画では、これまでに合意された改革の実施と評価、新たなリスクや脆弱性の評価及び更なる監督上の協力を、高い優先順位を置いている。また、バーゼル委は、新型コロナウイルス感染症が展開し続ける中、銀行が今後の回復に持続可能な形で貢献できるよう、世界の銀行システムの強靱性のモニタリングを継続する。作業計画は4月に公表される予定である。

GHOSメンバーはまた、NBFIに関して進行中の様々な国際的な取組みについて意見交換を行う機会を持った。NBFIは現在、世界の金融システムのほぼ半分を占め、実体経済に資金を提供する役割を担うようになっている。銀行とノンバンク金融機関は、複数の経路を通じて相互に関連している。このため、NBFIセクターの安全性と健全性が、銀行セクターの安全性と健全性にとって重要である。

GHOSメンバーは、NBFIに関する取組みは、金融安定理事会が従っているように、

NBFI の強靭性を向上させ、システミック・リスクを最小化し、市場に関連する他の諸目的を達成する必要性を考慮する、包括的なアプローチ (holistic approach) をとるべきであることに合意した。こうした取組みは、また、コロナ危機に対処するための重要な支えとなってきた、世界の銀行システムの強靭性と合意された健全性基準を守るものであるべきである。当面の間、銀行監督当局は、銀行システムとの直接的・間接的な相互連関性の度合いをよりよく把握するため、NBFI の展開を継続的にモニタリングすべきである。